

次年度へ向けて

～第2回地域学校協働活動運営委員会・推進員合同会議から～

早いもので、令和5年度も最後の月を迎えました。季節も三寒四温を繰り返しながら確実に春に向かっていくことを感じます。先日、早朝あいさつ運動で網津小学校を訪ねた時、校庭の桜の木の蕾が膨らみ始めているのを見付けました。

さて、2月22日に第2回地域学校協働活動推進事業運営委員会・推進員合同会議を開催し、今年度の事業報告をしました。その概要は下記の通りです。

【成果】

1 すべての小中学校でコロナ禍前の活動が再開され、活動が充実した。

特に、「読み聞かせ」については、各校区の読み聞かせサークルやPTAによりすべての学校で再開された。また、丸付け支援によりボランティア数が増えた小学校もあった。

2 本事業のかかる情報の発信。

地域学校協働活動便り「結」を月に一回発行し、各地区公民館及び市立図書館に掲示を依頼した。また、全ての小中学校にもメール配信して、保護者等の目に付きやすい場所に掲示をお願いして本事業の啓発を図った。

3 地域と学校の連携・協働の取組（双方向からの交流活動）

これまでの活動は、地域住民が学校を支援する取組がほとんどだったが、その逆の学校から地域へ向けての活動に取り組むことができた。具体的には、走潟小、宇土小、鶴城中の活動を紹介した。

【課題】

- 1 さらなるボランティア人員の確保。
- 2 広く地域住民への情報発信の工夫。
- 3 学校から地域へ向けての活動の充実。



事業報告等について、各委員から下記のようなご意見をいただきました。

- ◆PTA行事においては、保護者だけでなく祖父母を巻き込んだ活動が効果的な場合があると思う。⇒積極的な世代間交流の促進が求められるのではないか。
- ◆収穫物配付による地域住民と学校の接点の発見。ただ作るだけでなく、その後の一工夫が大切ではないか。

今年度、それぞれの小中学校の教育活動をご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。併せて、次年度も本事業につきまして、ご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

地域学校協働活動は、学校と地域が協働・連携して双方向で取り組む活動です。